

2017年度第5回中山競馬特別レース名解説

<第1日>

○ イルミネーションジャンプステークス

イルミネーション (Illumination) は、「照明」「電飾」を意味する英語。中山競馬場では、11月26日～12月24日の土曜・日曜・祝日に、正門前広場で幻想的なクリスマスイルミネーションを見ることができる。

○ 葉牡丹賞

葉牡丹 (はばたん) は、ヨーロッパ原産のアブラナ科の越年草。キャベツを観賞用に品種改良したものであり、冬になると中心の葉が白・黄・紫などに色付く。花言葉は「利益」「慈愛」。

○ 北総ステークス

北総 (ほくそう) は、旧国名である下総の別称。現在の千葉県北部および茨城県南部の地域を指す。住宅地として開発が進む一方、サツマイモや大根などの近郊農業も盛ん。

○ スポーツニッポン賞ステイヤーズステークス (G II)

本競走は、昭和42年に創設された重賞競走。平地競走の中では最長の3600mで実施される。平成9年に負担重量がハンデキャップから別定に変更された。

ステイヤー (Stayer) は、「耐える者」を意味する英語。その名が示すとおり、馬にも騎手にも長丁場を耐え抜く持久力が求められる。

スポーツニッポンは、スポーツニッポン新聞社が発行するスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○ チバテレ杯

チバテレは、千葉市中央区に本社を置く千葉テレビの愛称。昭和46年開局。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 市川ステークス

市川 (いちかわ) は、千葉県北西部に位置する市。梨の生産や海苔の養殖が盛ん。また、江戸川を挟んで東京都と隣接し、都心へのアクセスに優れていることから、ベッドタウンとして発展している。

○ ラピスラズリステークス

ラピスラズリ (Lapis Lazuli) は、藍青色を呈した鉱物。古代から飾り石として用いられ、12月の誕生石の1種としても知られている。主な産出地はアフガニスタンで、「瑠璃」「ラズライト」ともよばれる。

<第3日>

○ 霞ヶ浦特別

霞ヶ浦 (かすみがうら) は、茨城県南東部の湖。鹿島灘寄りの北浦に対し、西浦とも呼ばれる。面積は220 km²で、琵琶湖に次いで国内第2位の広さ。湖の大部分が水郷筑波国立公園に含まれている。

○ アクアラインステークス

アクアライン (Aqualine) は、海上道路と海底トンネルからなる自動車専用道路で、千葉県木更津市と神奈川県川崎市を結ぶ。平成元年に着工し、9年に開通した。海上パーキングエリア「海ほたる」では、東京湾の360°パノラマビューやショッピングを楽しむことができる。

○ 師走ステークス

師走 (しわす) は、陰暦12月の異称。季語や時候の挨拶などに用いられる。

<第4日>

○ 黒松賞

黒松 (くろまつ) は、マツ科の常緑高木。樹皮は灰黒色で、亀甲状の裂け目がある。葉は2枚ずつ対に付き、針状で硬い。潮風に強いことから、防風林として用いられることが多い。

○ 美浦ステークス

美浦 (みほ) は、茨城県南部、稲敷郡北部の霞ヶ浦に面した村。湖岸の低湿地帯には水田が広がり、低い台地には畑地が多い。霞ヶ浦に面した安中台地にある陸平貝塚は、明治12年に日本人の手で初めて発掘調査された縄文時代の遺跡である。

なお、同村にはJRAの競走馬調教施設である美浦トレーニング・センターがある。

○ カペラステークス（GⅢ）

本競走は、秋季競馬における短距離ダート競走の充実を図る観点から、平成 20 年に創設された重賞競走。

カペラ (Capella) は、ぎょしゃ座のアルファ星。ラテン語で「牝の仔ヤギ」を意味する。カペラ・アルデバラン・リゲル・シリウス・プロキオン・ポルックスの 6 つの恒星で冬のダイヤモンドを構成する。

<第 5 日>

○ ひいらぎ賞

ひいらぎは、モクセイ科の常緑高木。葉は対生し、長楕円形で鋭い鋸歯がある。初冬になると、葉腋に白色の芳香がある花をつけ、核果は紫黒色に熟する。花言葉は「先見の明」「歓迎」。

○ 仲冬ステークス

仲冬（ちゅうとう）は、陰暦 11 月の異称。季語や時候の挨拶などに用いられる。

○ ターコイズステークス（GⅢ）

本競走は、古馬牝馬路線のさらなる充実を目的として、平成 27 年に新設された重賞競走。本年から GⅢ 競走に格付けされている。

ターコイズ (Turquoise) は、12 月の誕生石の 1 種。別名トルコ石。トルコでは産出されないが、トルコを通じてヨーロッパに輸入されたため、トルコ石の名がついたと言われている。色は碧青または淡緑で、その独特な色合いから「ターコイズブルー」とも呼ばれる。

<第 6 日>

○ 香取特別

香取（かとり）は、千葉県北部にある市。平成 18 年に佐原市・小見川町・山田町・栗源町の 1 市 3 町が合併して誕生した。市内に鎮座する香取神宮は、中世以降は下総国の一宮、明治以後は官幣大社に列し、昭和に勅祭社に治定された。

○ 南総ステークス

南総（なんそう）は、旧国名である上総の別称。現在の千葉県中部一帯を指し、「南総里見八犬伝」のモデルとなった里見氏の城下町である館山市などを含む。

○ ディセンバーステークス

ディセンバー (December) は、「12月」を意味する英語。ラテン語で「10」を意味する「Decem」が語源とされ、古代ローマで採用されていた3月起算の暦において10番目の月という意。

<第7日>

○ 舞浜特別

舞浜 (まいはま) は、浦安市の地名。同地にある大規模リゾート施設「東京ディズニーリゾート」建設時に、アメリカ合衆国フロリダ州のディズニー・ワールドの近くにある「マイアミビーチ」にちなんで名付けられた。

○ ノエル賞

ノエル (Noel) は、クリスマスを意味するフランス語。日本では英語の「クリスマス」が使われることが多いが、薪の形をしたクリスマスケーキの「ブッシュ・ド・ノエル」やクリスマスローズの事を指す「ローズ・ド・ノエル」など、「ノエル」もクリスマスを表現する言葉としてしばしば用いられる。

○ 農林水産省賞典中山大障害 (J・G I)

本競走は、昭和9年に創設された障害重賞競走。当時中山競馬倶楽部の理事長であった肥田金一郎氏が、東京競馬場の東京優駿 (日本ダービー) に匹敵する中山競馬場の名物競走とする目的で設けた。競走距離について幾度かの変更を経て、47年秋に創設時の4100mに戻された。また、平成11年に障害競走の最高峰であるJ・G Iに格付けされ、負担重量も別定から定量に変更された。なお、10年までは春・秋の年2回実施されていたが、11年より春は『中山グランドジャンプ』として実施されている。

○ グレイトフルステークス

グレイトフル (Grateful) は、「感謝する」「ありがたく思う」を意味する英語。

<第8日>

○ クリスマスローズステークス

クリスマスローズ (Christmas Rose) は、キンポウゲ科ヘレボルス属の多年草。ヨーロッパや西アジアなどが原産で約20種類が分布する。草丈は20~30cm。花びらに見えるものはがくが発達したもので、本来の花弁は退化しておしべに隠れている。色は桃色をおびた白色。花言葉は「追憶」「慰め」。

○ グッドラックハンデキャップ

グッドラック (Good Luck) は、「幸運」を意味する英語。「幸運を祈る」「上手くいくことを願う」という意味で、相手を励ます言葉としても用いられる。

○ 2017フェアウェルステークス

フェアウェル (Farewell) は、「別れ」を意味する英語。「ごきげんよう」「さようなら」という意味で、別れ際の挨拶としても用いられる。

○ 有馬記念 (G I) (第62回グランプリ)

本競走は、昭和31年に創設された『中山グランプリ』を前身とする重賞競走。当時の日本中央競馬会理事長であった有馬頼寧氏が、中山競馬場新スタンド竣工を機に「東京優駿 (日本ダービー) に匹敵する大レースを」と提案し、創設された。しかし、第1回の実施から間もない翌32年1月9日に有馬氏が急逝したため、同氏の功績を称えて『有馬記念』と改称された。以来、年末の風物詩として親しまれ、幾多の名馬が名勝負を繰り広げてきた。

なお、本競走は『宝塚記念』と同様、ファン投票によって出走馬が選定される。

○ クリスマスカップ

クリスマス (Christmas) は、キリスト降誕祭のこと。キリスト教圏では主に家族と過ごし、プレゼントを交換する風習がある。日本では、明治時代以降に年中行事として定着したといわれている。

<第9日>

○ エスペランサ賞

エスペランサ (Esperanza) は、「希望」「期待」を意味するスペイン語。本競走は、人馬の「未来への飛躍」をイメージして名付けられた。

○ ホープフルステークス (G I)

本競走は、『ラジオ NIKKEI 杯 2歳ステークス』を前身とする重賞競走。平成26年にG IIに、本年よりG Iに格上げされ、2歳中距離路線の頂点を決める競走として位置づけられている。『皐月賞』と同じ舞台で実施されることから、来春のクラシック路線を占う一戦としても注目される。

ホープフル (Hopeful) は、「希望に満ちた」「望みを持つ」を意味する英語。

○ ベストウィッシュカップ

ベストウィッシュ (Best Wishes) は、「幸福あれ」を意味する英語。また、手紙の文末では結びの句としても用いられる。